

日本人若年女性が抱く女性美の 探索的調査 (1)

——美にまつわる人物・語感・行為——

An Exploratory Research on Standards of Woman's Beauty among Japanese Young Ladies-Part 1

——Icons, Words and Behaviors Related to Concepts of Beauty——

山田 雅子

YAMADA Masako

日本人若年女性が抱く女性美の 探索的調査 (1)

——美にまつわる人物・語感・行為——

An Exploratory Research on Standards of Woman's Beauty among Japanese Young Ladies-Part 1

——Icons, Words and Behaviors Related to Concepts of Beauty——

山田 雅子

YAMADA Masako

要旨:日本人女性273名（一般女性および女子短期大学生）を対象とし、女性美に関する探索的調査を行った。美を感じる人物、美に関わる各種の語感の捉え方、自身の美を高める行い等を尋ねた結果、対象者の年齢によって規定される要素が認められた他、対象者の所属や教育指導による影響と推察される要素も見られた。また、女子短期大学生を対象として行われた種々の先行研究の結果が支持され、女性美をめぐる日本人若年女性の認識としての安定性が確認された。

キーワード: 美しさ, 美, 美人, 女性, 基準

1. はじめに

美しいとはどのようなことを指すのか。この問いに対する答えには、必ず前提条件、或いは制限が付く。「付けなくてはならない」とも言い得る。昭和20年代の日本人が考える美しさ、18世紀のフランスの哲学者が考える美しさ、2018年の時点でインドの女性たちが求める美しさのように、いつ、どこの誰が考える美しさなのかということを明らかにする必要がある。なぜなら、定義された美しさがいつの世にも誰に対しても通用するものであるとは言い得ないからである。換言すれば、時代や身を置く地、文化の影響によって答えが大きく左右されるということにもなる。大坊（1997）によれば、こうした社会によって形づくられる美の要素は「社会的美」と称される。

ここで改めて、冒頭の問いである。美しいとはどのようなことを指すのであろうか。人を「美しい」と評価する場合には、「美人」と表現する際よりも内面が重視される傾向にある（山田, 2013）。外見の美しさといえば、顔や身体の形が整っていること、肌がきれいなこと、化粧が上手であること、立ち居振る舞いがきれいであることなどを示し、内面の美しさといえば、人に対する配慮がある、優しい、誰に対しても態度に一貫性がある、自分をしっかり持っている等のことを示す（山田, 2009, 2014）。また、「美しい」と表現する際には、〈心づかい〉や〈自己の確立〉といった要素が「美人」という評価の際よりも求められ、逆に〈整った顔〉や〈プロポーション〉の良さといった要素は重視されない（山田, 2015）。このように、これまでに多くの報告がなされてきたが、注意すべきはこれらの結果が全て2000年代の関東在住の日本人女子短期大学生について得られたものであるということである。いつの世にも、誰に対しても通用するという保証はなく、結果の解釈の際は「2000年代の関東在住の日本人女子短期大学生」という制限を超えることはできない。そこで本研究では、これまでに得られた知見が日本人若年女性に拡大して解釈し得るものなのかを見極め、2016年を18歳から29歳の日本人女性として生きる対象者たちが女性美や本人自身の美しさをどのように捉えているのかを探ることを目指すこととした。

2. 方法

2.1 対象者

日本人女性273名（平均年齢23.133歳）を対象とした。なお、18～24歳までの一般女性を指す「一般女性18-24」、25～29歳までの一般女性を指す「一般女性25-29」、関東在住の女子短期大学生を指す「女子短期大学生」の3群に分け、各群間の比較を行うこととした。各群の構成は下記の通りである。

・一般女性18-24	18～24歳	134名（平均年齢21.045歳）
・一般女性25-29	25～29歳	77名（平均年齢26.766歳）
・女子短期大学生	18～20歳	62名（平均年齢18.887歳）

2.2 調査時期

・一般女性	2016年7月
・女子短期大学生	2016年9月

2.3 調査内容

各対象者に調査用紙を配付し、下記内容について回答を求めた。なお、以下は実際の調査用紙上の教示であり、括弧内は回答方法の詳細である。

- 1) あなたが美人だと思う女性有名人を2人挙げてください。※次の2)の回答と重複しても構いません。（2件自由回答）
- 2) あなたが美しいと思う女性有名人を2人挙げてください。※前の1)の回答と重複しても構いません。（2件自由回答）
- 3) あなたがある女性を「美人」と言う場合、外見と内面のどちらを重視しますか。（外見／内面よりそれぞれ一者選択）
- 4) あなたがある女性を「美しい」と言う場合、外見と内面のどちらを重視しますか。（外見／内面よりそれぞれ一者選択）
- 5) あなたが次の言葉を女性に対して用いるとき、特別感が高いものから順に①～⑤の番号をご記入ください。また、あなた自身が最も言われたい言葉を1つ選び、番号でお答えください。（①魅力的／②かわいい／③美しい／④素敵／⑤きれい 特別感については第1位から第3位まで並べ替え、最も言われたい言葉は一者選択）
- 6) 「美しくある」ために、あるいは「美しくなる」ために、あなたが現在していることを3つ挙げてください。（3件自由回答）
- 7) あなたがある女性を「美人」あるいは「美しい」と言う場合、次の要素をどの程度重視しますか。それぞれについて、当てはまる箇所に○をつけてください。（30項目について4件法で回答）ⁱ

3. 結果および考察

3.1 「美人」「美しい」として想起される人物

美人あるいは美しいと思う有名人としてそれぞれ挙げられた人物（各2名ずつ）を集計した結果、Table 1-1およびTable 1-2が得られた。なお、表中には合計の回答頻度の高い順から10名程度のみ掲載した。

i 7) に関する結果は本稿では取り上げず、次号の第2部において報告する。

「美人」として挙げられた人物としては、いずれの群においても女優の北川景子氏が最多であり、特に一般女性25-29群では他の人物と大きな差異を持っての首位であった。北川氏は「美しい」という有名人としても同様に首位であり、非常に高い注目を集めたと言える。また、評価語の表現にかかわらず頻度の高い回答の多くは女優やモデルであり、美しいとして挙げられた人物について9年間の調査結果がまとめられた山田（2017）の傾向にも一致すると言える。

対象者の群による回答傾向の違いは若干見られ、「美人」として全体で8位の井川遥氏は一般女性25-29群において第2位（群内比率11.7%）、表内に掲載されていない竹内結子氏も、綾瀬はるか氏、長澤まさみ氏、菜々緒氏と共に5件で第5位（同6.5%）となっている。20代後半の一般女性25-29群は、30代から40代の人物に対する美人評価が若年の群よりも目立つことが指摘できる。同様の傾向は「美しい」との評価の場合にも認められ、全体で6位の井川遥氏、同9位の吉瀬美智子氏は、いずれも一般女性25-29群において第2位の評価であり、7件の回答を集めている（群内比率9.1%）。「美人」「美しい」といった評価語にかかわらず、全体として20代から30代の人物が多く挙げられていると言えるが、対象者の年齢の上昇に伴って想起される人物の年齢層も若干上がる傾向にあることが読み取れる。当該結果からは、ライフステージに合わせたロールモデルの変化や美しさを測る基準として回答者自身の在り方が影響する可能性が考えられる。

Table 1-1 美人として挙げられた人物（部分）

順位	人 名	一般女性 18-24	一般女性 25-29	女子短期 大学生	合 計	割 合
1	北川 景子	33	28	19	80	29.3%
2	石原 さとみ	28	9	11	48	17.6%
3	綾瀬 はるか	16	5	9	30	11.0%
4	長澤 まさみ	9	5	2	16	5.9%
5	佐々木 希	8	3	4	15	5.5%
6	桐谷 美玲	9	4	1	14	5.1%
7	堀北 真希	10	2	1	13	4.8%
8	ローラ	2	4	6	12	4.4%
8	井川 遥	2	9	1	12	4.4%
8	菜々緒	3	5	4	12	4.4%
8	柴咲 コウ	8	4	0	12	4.4%

Table 1-2 美しいとして挙げられた人物 (部分)ⁱⁱ

順位	人 名	一般女性 18-24	一般女性 25-29	女子短期 大学生	合 計	割 合
1	北川 景子	31	24	13	68	24.9%
2	綾瀬 はるか	15	6	10	31	11.4%
3	石原 さとみ	20	5	5	30	11.0%
4	菜々緒	4	4	7	15	5.5%
5	ローラ	5	3	4	12	4.4%
6	井川 遥	2	7	1	10	3.7%
6	長澤 まさみ	6	2	2	10	3.7%
6	堀北 真希	8	0	2	10	3.7%
9	吉瀬 美智子	2	7	0	9	3.3%
9	篠原 涼子	3	5	1	9	3.3%
9	深田 恭子	4	2	3	9	3.3%
9	仲間 由紀恵	7	2	0	9	3.3%

更に、「美人」と「美しい」という2種の評価語によって、回答される人物に違いが生じるのか否か、順位の変動をTable 2にまとめた。これら2つの語が全く同一と受け止められていると仮定すれば、教示による順位の変化は生じないことになる。だが、大きく順位が変化する例も見られ、語感の違いの存在が感じ取られる結果となった。

先行研究(山田, 2013)では、「美人」との評価において外見を重視し、「美しい」との評価では外見重視と内面重視の回答が拮抗するという傾向が安定して得られている。また、各種の評価項目を用いた因子分析の結果からも、「美人」と外見的美貌の関連、「美しい」という評価と内面的要素(心づかい・自己の確立)との関連が指摘されている(山田, 2015)。これらの結果を踏まえれば、「美人」として挙げられる人物は主に容貌の美が評価基準となり、「美しい」として挙げられる人物の場合は、外見的美しさの他、生き方や考え方といった外見的要素以外の情報までが考慮されていると考えることができる。本調査では有名人という制限の中で回答されているため、外見以外の情報のアクセシビリティの影響も考慮すべきであろう。「美人」として挙げられていても、生き方や考え方、内面的要素等の情報が得にくい人物、或いは当該情報についてネガティブな印象が付与されている人物は、「美しい」という表現に変わったときに選択対象とならなかった可能性がある。

ii 表中の女子短期大学生群の値は、山田(2016)掲載の2016年調査結果と同一のものである。

Table 2 「美人」評価と「美しい」評価における順位の変化

人 名	「美人」→「美しい」 への順位変動	「美人」 順位	「美しい」 順位
北川 景子	→	1	1
石原 さとみ	↘	2	3
綾瀬 はるか	↗	3	2
長澤 まさみ	↘	4	6
佐々木 希	↘	5	13
桐谷 美玲	↘	6	15
堀北 真希	↗	7	6
菜々緒	↗	8	4
ローラ	↗	8	5
井川 遥	↗	8	6
柴咲 コウ	↘	8	15
吉瀬 美智子	↗	13	9
仲間 由紀恵	↗	13	9
深田 恭子	↗	19	9

3.2 「美人」「美しい」表現に対する外見と内面の重視

ある女性を「美人」あるいは「美しい」と表現する際に重視する対象として、外見と内面のいずれかが選択された結果、次のFigure 1-1およびFigure 1-2の傾向が得られた。

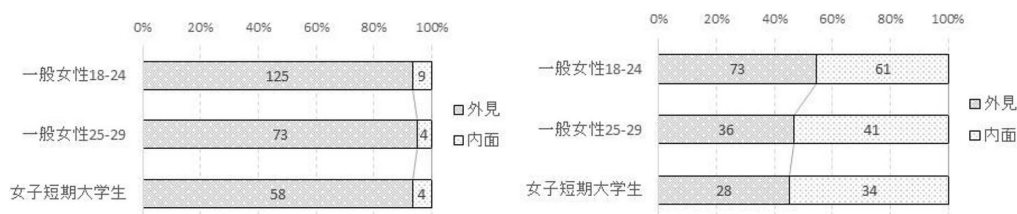


Figure 1-1 「美人」評価時の重視対象としての外見・内面選択比率：左図

Figure 1-2 「美しい」評価時の重視対象としての外見・内面選択比率：右図

先行研究（山田, 2013）の結果と同様に、本結果においても「美人」と評価する場合には外見重視が支配的となり、「美しい」と評価する場合には、外見重視と内面重視が拮抗する傾向が捉えられた。また、「美しい」と表現する際の選択傾向は、一般女性18-24群では、外見重視と内

面重視がほぼ半数ずつであった一方、一般女性の20代後半の群と女子短期大学生群において内面重視が若干優勢となる様がFigure 1-2からも見て取れる。本調査の対象とした女子短期大学では全学的にホスピタリティ教育に重きを置いていることから、当該教育方針の影響が回答に表れたとも考え得る。年齢のみならず、身を置く環境が語感の受け止め方や女性美の価値観に強い作用を及ぼす可能性が示唆される。

3.3 褒め言葉の語感

「魅力的」「かわいい」「美しい」「素敵」「きれい」の5種の言葉を選択肢とし、特別感の高いものから順に3位までが選ばれた結果、1位の集計結果はFigure 2、3位までの各選択結果はFigure 3-1からFigure 3-4のようになった。

いずれのグラフからも群による若干の違いが読み取れるが、「魅力的」「美しい」に対する選択が多く、これらの語に対して特別な表現であると感じ、非日常的な印象を抱いていることが分かる。「素敵」「きれい」は、2位や3位としての選択が多く、「魅力的」「美しい」に次ぐ特別感であることが捉えられる一方、「かわいい」は全体としても選択されない傾向にあり、日常的で身近な言葉として認識されていることが窺われる。

また、言われたい褒め言葉として選択された語は次のFigure 4の通りである。3.2項の外見・内面の選択傾向とは異なり、一般女性18-24群と女子短期大学生群の結果の類似が確認される結果となった。すなわち、20代後半の一般女性25-29群の半数が「魅力的」と言われたいと回答したのに対し、より若年の一般女性18-24群と女子短期大学生群は選択が分散する傾向にあり、「魅力的」を筆頭に「きれい」「かわいい」といった語も比較的選ばれていたと言える。

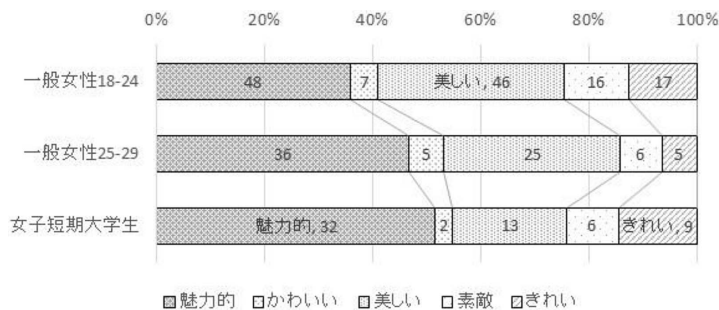


Figure 2 特別感1位の語の割合

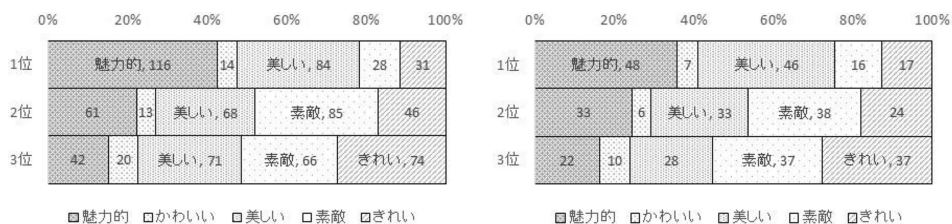


Figure 3-1 特別感 1～3位の選択結果（3群全体）：左図

Figure 3-2 特別感 1～3位の選択結果（一般女性18-24）：右図

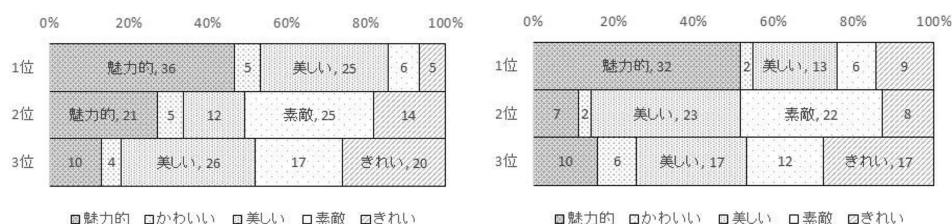


Figure 3-3 特別感 1～3位の選択結果（一般女性25-29）：左図

Figure 3-4 特別感 1～3位の選択結果（女子短期大学生）：右図

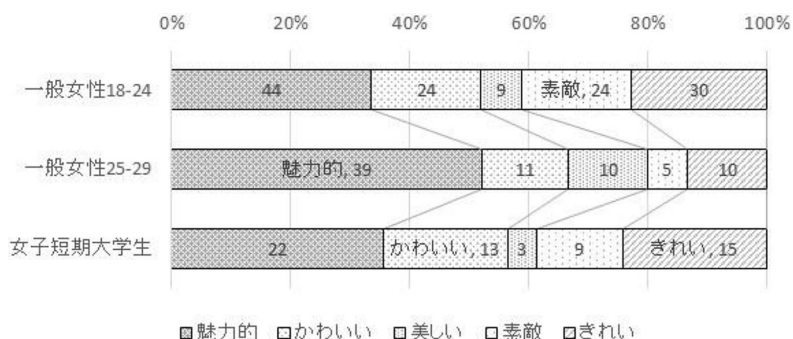


Figure 4 言われたい褒め言葉の割合

言われたい言葉の選択を示すFigure 4と、特別感のある言葉の選択を示す Figure 2とでは傾向に若干の違いが見られるが、同一対象者内で両回答の一致率を確認したところ、全体では47.6%、一般女性18-24群では47.8%、一般女性25-29群では53.2%、女子短期大学生群では40.3%という値が得られた。当該結果より、必ずしも特別感のある言葉を言われたいのではないことが

窺われるが、逆に見れば、約半数は最も特別感のある言葉を褒め言葉として言われたいと回答したことになる。後者のように、特別感が高く、褒め言葉としても望まれている語の代表は「魅力的」である。他方、特別感が高い一方で、褒め言葉として望まれていない語は「美しい」という表現であり、特別感を高く評価していても回答者は自分自身に対する表現として求めていることが指摘できる。

更に、特別感について1位に選ばれた語の群別選択頻度、および言われたい褒め言葉の群別回答頻度を基に、コレスポンデンス分析を行った結果、次のFigure 5-1およびFigure 5-2が得られた。これら2図において各要素の布置が異なることから前述の特徴は明らかであろう。特別感と自己に対する評価として求める言葉は絶対的に一致するものではないと言える。また、言われたい褒め言葉の選択に基づくFigure 5-2においては、各語と群の近接（親和性）の説明変数として

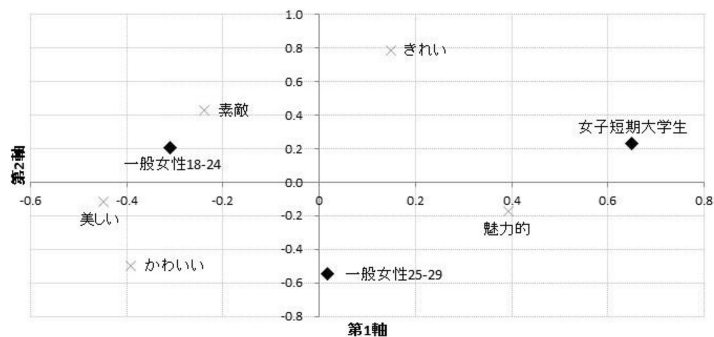


Figure 5-1 特別感1位の選択に基づく各群と語の布置

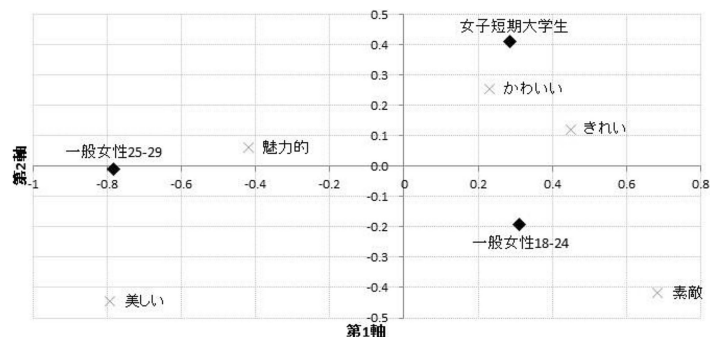


Figure 5-2 言われたい褒め言葉の選択に基づく各群と語の布置

年齢が有効であることが読み取れるが、特別感を示すFigure 5-1においては各群が広く分布しており、年齢によるまとまりも見られない。当該傾向からは、特別感を含む語感の受け止め方は年齢以外の要素が複合的に関わることが考えられる。一方、「言われたい」といった回答者本人が関わる設問の場合には、回答者本人の関わりが一定の条件となり、年齢による回答傾向の統一が見られるものと推察される。

3.4 「美しくある」「美しくなる」ためにしていること

「美しくある」「美しくなる」ために現在していることとして回答された内容を分類し集計した結果、3つの対象群全体ではFigure 6に示す結果が得られた。

全体としてスキンケアや基礎化粧品など、肌の手入れに関する記述が最も多く、次いで、食事の栄養バランス、運動・スポーツに関する記述が続いた。先行研究（山田, 2013）および3.2項に表されるように、「美人」と表現する際には大半が外見を重視し、「美しい」との表現においても約半数が外見重視と回答する傾向が捉えられた。これより、外見と美の繋がりは少なからず意識されていることが指摘できるが、回答者自身の美しさについて考える場合は、化粧やファッション等の表面的な外見管理の手段ではなく、身体の一部である肌や筋肉そのものを内側から整え、外見に反映させる方法が想起される傾向にあると言える。また、これらの内容はいずれも健康に繋がる側面がある。健康と美の繋がりに対しても今後の研究で明らかにしていく必要があると言えよう。

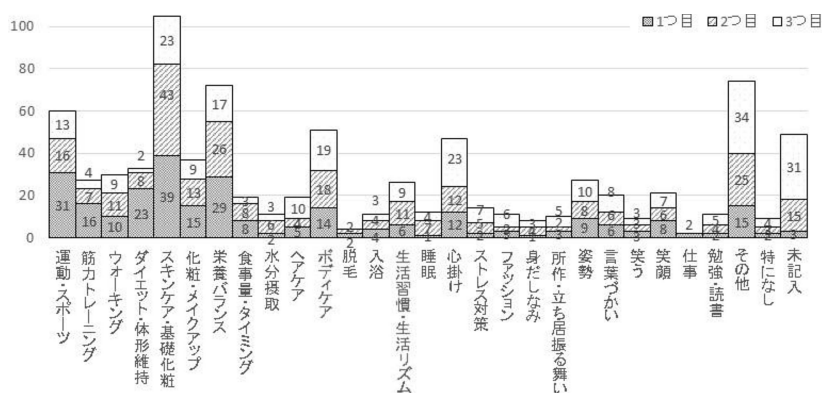


Figure 6 「美しくある」「美しくなる」ためにしていること（全体）

3. 2項の結果を別の側面から見れば、対象者の約半数が「美しい」と評価する際に内面を重視すると回答したことにもなる。しかし、「美しくある」「美しくなる」ためにしていることとして挙げられた内容は、視覚的な外見の変化や維持に寄与する要素が多くを占め、「心掛け」や「言葉づかい」、「勉強・読書」など、内面的な精神活動に関わる内容は相対的に低い割合であった。実際に精神的な活動が行われていない可能性もあるが、そうした活動がありながら、美しさに関わる行為として捉えられていないことも考えられる。こうした結果からは、対人場面と対自場面とでの美しさの捉え方や感度が異なることも推察される。

群別に集計した結果は次のTable 3の通りである。群により回答内容に差異があり、年齢や所属による影響が読み取れる。一般女性18-24群はスキンケア・基礎化粧品が52件（群内比率38.8%）と最も多く、栄養バランス（同24.6%）、運動・スポーツ（同22.4%）、ボディケア（同18.7%）が30件前後の規模で高頻度となっているが、一般女性25-29群では、栄養バランスに関する記述が最多で28件（群内比率36.4%）、スキンケア・基礎化粧品（同33.8%）、運動・スポーツ（同33.8%）も同程度の規模である一方、化粧品・メイクアップ（同2.6%）が18-24群よりも極端に少ないことが特徴と言える。また、女子短期大学生群は一般女性18-24群と同様にスキンケア・基礎化粧品（群内比率43.5%）が最多であったが、運動・スポーツに関わる回答が少なく（同6.5%）、他方、心掛け（同30.6%）や言葉づかい（同16.1%）に関する記述が多いことが特徴的である。3. 2項の結果とも共通するが、本調査の対象者が所属する女子短期大学はマナーやホスピタリティの教育を特色の一つとしているため、学生の意識にも対人的な心づかいやマナーに類する内容が上りやすかったことが考えられる。対象者の年齢による社会的経験や身体的特徴の変化のみならず、日々触れる情報や周囲と共有される価値観等も本項目の回答に影響を及ぼす要素として注意を払うべきと思われる。

また、3. 3項の結果に明らかであるように、「美しい」という言葉は特別感について高く評価されながら、実際に当該表現で褒められたいとは思われていないという特徴がある。回答者本人と「美しい」という表現との間に親和性があるとはいえず、「美しい」という言葉の非日常性が窺われるため、本設問で「美しくある」「美しくなる」といった表現を用いていることについても結果の解釈の際に考慮する必要があると言える。

Table 3 「美しくある」「美しくなる」ためにしていること
※回答率5%以上の分類のみ掲載

順位	分 類 名	一般女性 18-24	一般女性 25-29	女子短期 大学生	合 計	比 率
1	スキンケア・基礎化粧品（保湿、日焼け防止、フェイシャルエステなど）	52	26	27	105	38.5%
2	栄養バランス（野菜を食べる、バランスのとれた食事など）	33	28	11	72	26.4%
3	運動・スポーツ（ジムで運動する、ヨガ、ランニングなど）	30	26	4	60	22.0%
4	ボディケア（ストレッチ、骨盤矯正、エステなど）	25	17	9	51	18.7%
5	心掛け（思いやりを持つ、女性であることを意識するなど）	17	12	19	48	17.6%
6	化粧・メイクアップ（メイクを頑張る、メイク動画を見るなど）	19	2	16	37	13.6%
7	ダイエット・体形維持（ダイエット、体形を保つなど）	14	9	10	33	12.1%
8	ウォーキング（なるべく歩く、毎日一時間歩くなど）	17	12	1	30	11.0%
9	筋力トレーニング（筋トレ、筋肉をつけるなど）	18	8	1	27	9.9%
10	生活習慣・生活リズム（規則正しい生活、早寝早起きなど）	14	10	2	26	9.5%
11	姿勢（姿勢をただす、姿勢を意識して歩くなど）	9	8	5	22	8.1%
12	笑顔（いつも笑顔でいる、笑顔を心がける、笑顔で人と接するなど）	8	9	4	21	7.7%
13	言葉づかい（言葉づかいに気を付ける、きれいな言葉を使うなど）	6	4	10	20	7.3%
14	ヘアケア（ヘアケア、髪の毛のケア、トリートメントを毎日使うなど）	13	2	4	19	7.0%
14	食事量・タイミング（食べ過ぎないようにする、間食を減らすなど）	14	4	1	19	7.0%
16	ストレス対策（ストレスをためない、いやなことを溜め込まないなど）	3	6	5	14	5.1%
16	笑う（よく笑う、笑うなど）	9	3	2	14	5.1%

4. 今後の課題

本調査においては、18歳から20代前半の群と20代後半の対象者を比較しただけでも若干の傾向の変化が見られた。蓄積された経験や生まれた時代による価値観の違いを追うためにも、年齢層を拡大した上で調査を継続する必要がある。また、同年代であっても一般女性と短期大学生との間では共通しない部分も見られたため、日々の会話の話題や情報環境等、年齢以外の説明変数の追跡にも取り組みたい。

更に、美と健康との繋がりも本調査から得られたキーポイントである。特に回答者自身の美を高める行いとして健康に関わる要素が多数挙げられたため、自己と他者での基準の変化と併せ、美と健康の重なりと相違にも迫ることを今後の課題とする。

5. まとめ

日本人女性（一般および短期大学生）273名を対象として女性美に関する調査を行った結果、次に挙げる傾向が確認された。

- ①「美人」「美しい」として想起される人物には一定の共通性があり、メディアによる情報等、時代を鮮明に反映する様子が捉えられた。また、結婚・出産等のライフステージの移行に伴い、年代によるロールモデルの変化の可能性も捉えられた。
- ②「美人」と表現する際には9割を超える対象者が共通して外見を重視する一方、「美しい」と表現する場合は外見重視と内面重視の両方の意見が拮抗する結果が得られ、先行研究（山田, 2013, 2014）の傾向が追認された。
- ③「魅力的」という表現は特別感が強いと受け止められており、褒め言葉としても望まれていることが明らかとなった。他方、「美しい」という表現は特別感が高いと評価されながらも、褒め言葉としては望まれない特徴を持つことが示唆された。
- ④「美しくある」「美しくなる」ために回答者自身が行っていることとしては、スキンケア、運動・トレーニング、栄養バランスなどが多く挙げられた。全体として身体的、外見の要素に関わる記述が多く、内面に関わるものとして解釈できる内容は少ない結果であった。

謝辞

本研究は、株式会社ワコール人間科学研究所との共同研究計画の下に行われたものである。同所の岸本泰蔵氏、上家倫子氏より、研究計画から調査実施、分析に至るまで多大なるお力添えを頂戴したことをここに記し、心より感謝申し上げる。

参考文献

- 大坊郁夫 『魅力の心理学』 ポーラ文化研究所, 1997.
- 山田雅子 「現代女性の美人観における外見と内面の分析—女子短大生が抱く美しさの構造—」 埼玉女子短期大学研究紀要, 第20号, pp.79–91, 2009.
- 山田雅子 「人の美しさに関わる言葉の語感の分析—若年女性における「美人」と「美しい」の使い分け—」 埼玉女子短期大学研究紀要, 第28号, pp.113–123, 2013.
- 山田雅子 「外見の美しさと内面の美しさ—外見／内面の重視と美しさの捉え方の特徴—」 埼玉女子短期大学研究紀要, 第30号, pp.95–108, 2014.
- 山田雅子 「日本人若年女性が抱く美的価値観の因子構造—構成要素の重視度に対するアプローチ—」 埼玉女子短期大学研究紀要, 第32号, pp.61–75, 2015.
- 山田雅子 「日本人女子学生が抱く美人像の変遷—2008年から2016年に至る9年間の調査報告—」 埼玉女子短期大学研究紀要, 第36号, pp.61–72, 2017.